

平成23年1月1日



春に彩られた農道(知多郡南知多町)

第9回あいちの農業・農村フォトコンテスト
水土里のフォト大賞作品

目次

新年を迎えて	会長 神谷金衛	2	研修会	13
新春を迎えて	愛知県知事 神田真秋	3	□農業農村整備技術強化対策事業一般研修	
ごあいさつ 愛知県農林水産部農林基盤担当局長	青木章雄	4	□水土里ネット事業視察研修会	
叙勲・県功労者表彰		5	□排水機同協会視察研修会・農村振興総合整備推進事業視察研修会	
第13回愛知県土地改良事業推進大会		5	・適正化事業加入団体現地研修会・排水機管理担当者現地視察研修会	
要請活動を実施		6	第9回フォトコンテスト入賞入選作品	15
第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭		7	「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展2010入賞入選作品	15
第2回支会長会議		7	会員情報	17
第2回理事会		8	□活動情報	
第33回全国土地改良大会 長崎大会		8	•水土里ネット岡崎市東部・水土里ネット上衣文	
「食」と「地域」の再生に向けた			•水土里ネット愛知用水	
農業農村整備予算の確保を求める集い		10	□21世紀土地改良区創造運動	
2010ため池フォーラムinあいち		11	•水土里ネット南陽	
農と水の故郷フェア'10		12	•水土里ネット牟呂用水	
第13回あいちの農業・農村バナレル展		12	•ななえ賞を水土里ネット祖父江町受賞	
			土地改良施設台帳整備業務の取組み	19
			事業情報	20
			□水土里情報システムの活用方法について	
			□農地・水・環境のつどい開催 □水土保全強化対策事業情報	
			水土里ネット役職員研修会開催のお知らせ	23
			迎春	24



みどり
水土里ネット

新農村創造

発行所／愛知県土地改良事業団体連合会
名古屋市西区栄生一丁目18番25号
電話<052>551-3611(代)

新年を迎えて



水土里ネット愛知会長 神谷 金衛

会員の皆様方には、新年を迎え益々ご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り深く感謝いたします。

また、昨年11月には、大勢の土地改良関係者のご参集のもと、第13回土地改良事業物故功労者慰靈祭並びに第13回土地改良事業推進大会を名古屋東別院におきまして盛大に開催させていただきました。物故功労者のご供養と土地改良事業関係者の総意を県当局始め関係機関に強く訴えることができましたこと、改めて厚くお礼申し上げます。

一昨年秋に政権交代が行われてから、日本の農業・農政は激変の局面にあります。特に平成22年度予算では、我々の土地改良事業費は前年度比63.1%減の2,129億円と大幅に削減されました。

今回の事業費削減は、予算編成時に与党の重点要望として盛り込まれて削減となっただけに納得がいかず、今後の事業は言うまでもなく、実施中の事業についても停滞するのではと農家に不安や失望感が広がっております。

こうした中、政府は昨年3月、10年後の32年に食料自給率を50%に引き上げることを柱とした新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定しました。食料自給率の向上と農業の再生においては、農地の効率的な活用がその前提であり、

限りある農地の有効活用は、その整備・維持が不可欠であり、土地改良事業は、安定した農業用水と生産性の高い優良農地を確保するうえで、極めて重要であります。

しかし、政府はこの基本計画を明示したにもかかわらず、「環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）」への協議開始を表明しました。関税撤廃の例外措置を認めないTPPに参加すれば、食料自給率は大幅に落ち込むことは間違いない、日本の農業は壊滅するとも言われ、新たな不安を感じているところでもあります。

農業、特に土地改良事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、大幅な予算削減により存亡の危機に立たされており、23年度予算の編成にあたっては、これらのことことが冷静に論議され、必要な事業費が確保されなければなりません。

こうした多難な時期にこそ、食と地域の再生に向けて、農業農村整備事業を積極的に推進することが必要であり、我々の責務であると思います。

今後も鋭意、会員の皆様方のご意見を反映しつつ、役職員が一丸となって、業務運営に一層の努力をして参りたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げますとともに、土地改良事業の限りなき発展と皆様の益々のご繁栄を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



新春を迎えて



愛知県知事 神田 真秋

あけましておめでとうございます。

県民の皆様方には、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

昨年は、地域の総力を挙げて取り組んでまいりました、二つの大きな事業、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」と「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」を成功裡に終えることができ、本県にとりまして大きな節目の年となりました。県民の皆様方のご支援、ご協力に対しまして、改めて心より感謝申し上げます。

県としましては、これらの成果も踏まえ、地域づくりの羅針盤となる「政策指針2010-2015」と持続可能で質の高い行財政基盤の確立を目指す「愛知県第五次行革大綱」を車の両輪とし、県民の皆様方の日々の暮らしを守る取組はもとより、地域の将来にも目を向け、明日の愛知に繋がる歩みを着実に進めていかなければならぬと考えております。

このため、まずは、県民の皆様方の安心・安全を支える社会づくりに向け、福祉、医療、健康に関する施策を総合的に推進するとともに、雇用対策や地震防災対策、治安対策などを積極的に進めていくことが必要であります。

また、本県の活力を支える産業力をさらに強化するため、中小企業対策をはじめとして、自動車産業の強化や航空宇宙産業などの次世代産業の育成・振興、さらには若年層の就労促進など戦略的な施

策展開を図るとともに、将来の愛知の飛躍の基盤となる社会資本の整備や人づくりにも力を注がなければなりません。

特に、農業におきましては、さらに力強い産業として発展させるため、意欲ある多様な担い手の育成・確保、農地の利用集積、品質や生産性を高める新技術の開発などが急務であります。

とりわけ、農業農村整備事業は、安定した農業用水を確保し、農地の生産性を向上させるなどの生産基盤の保全・強化を図ることはもとより、局地的な集中豪雨や大規模地震などの自然災害から地域を守る大切な事業であり、全国有数の農業出荷額を誇る本県農業の基盤となる主要な施策として円滑に推進していく必要があります。

この地域の経済・雇用環境は厳しさが続いており、本県の財政状況も引き続き大変厳しい状況にあります。こうした中にあっても、足元を見据えて、県政の諸課題にしっかりと取り組んでいかなければならぬと考えております。

私が、知事として県政に携わるようになってから12年、多くの県民の皆様方のご支援をいただき、愛知万博の開催、中部国際空港の開港を大きな契機しながら、愛知の総合力を高めるための取組を全力で進めてまいりました。こうして培われた力を、さらに未来へ繋げるため、引き続き、愛知県政への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



ごあいさつ

愛知県農林水産部農林基盤担当局長 青木 章雄

あけましておめでとうございます。

愛知県土地改良事業団体連合会におかれましては、神谷会長を中心に、県政の発展に多大な御支援をいただくとともに、本県の農業農村整備事業の推進に格別な御尽力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の食料自給率は、主要先進国の中で最低水準といわれており、食料自給率を向上させることが我が国にとって大きな目標となっています。また、環太平洋連携協定（TPP）に関する議論が渦巻く中、国際競争力のある農業を目指していくことが必要とされています。

こうした中、本県の農業農村整備事業は、本年で通水五十周年を迎える愛知用水など、戦後、全国に先駆けて大規模水利事業に取り組むとともに、末端の用水路整備やほ場整備などを積極的に進め、生産性の高い優良な農地を生みだしてまいりました。

また、近年、集中豪雨が頻発し、東海・東南海地震の発生も危惧される中で、県内に四百か所以上ある農業用の排水機場は、海拔ゼロメートル地帯を中心として農地のみならず地域全体の排水機能を担っております。

このように、整備が行き届いた本県の農地や用排水施設は、全国有数の農業産出額を誇る本県農業の礎を築いてまいりましたが、さらに足腰の強い農業を目指していくためには、今後も農業農村整備

事業を堅実かつ着実に展開していくなければなりません。

昨年、愛知名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が歴史的な成果を残し閉幕いたしました。これと合わせて、貴連合会と愛知県が中心となり、生物多様性の観点からため池を見つめ直した「2010ため池フォーラム in あいち」を開催し、一般県民も含めた多くの方にご参加いただくことができました。このように生物多様性への社会的な関心が高まる中で、ため池や水路などの農業水利施設は、多様な水生動植物が生息する、まさに生物多様性の宝庫として、また、広く県民の皆様が水に親しめる身近な場所として、適切に保全されていくことが地域からますます期待されているところであります。

農業農村整備事業を取りまく情勢はさらに厳しさを増していると言わざるを得ませんが、貴連合会におかれましては、今後とも本県の農業農村整備事業の一層の推進に御尽力いただくとともに、これまで培われた知識や技術力を駆使して、さまざまな多面的機能を持つ農地、農業用水などの保全管理やそれらを活用した生物多様性保全の取組への御支援を賜りたいと存じます。

最後になりましたが、貴連合会のますますの御発展と会員各位の御健勝御多幸をお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

叙勲・県功労者表彰

平成22年度秋の叙勲・県功労者表彰の栄えある受章者に、土地改良関係者から3名が選ばれました。いずれも、土地改良事業の促進、発展に懸命に努力して来られた方々であり、このたびの栄えある受賞を心からお慶び申し上げ、益々ご健闘でご活躍されますようお祈りいたします。

ここに受賞者の方々をご紹介いたします。

旭日小綬章



石黒 嶽 氏

松原用水土地改良区理事長

旭日単光章



杉原 敬正 氏

知立土地改良区理事長

県功労者表彰



都築 末二 氏

占部土地改良区理事長

第13回愛知県土地改良事業推進大会 舉行

11月15日午後3時より、真宗大谷派名古屋別院（東別院）において、第13回愛知県土地改良事業推進大会を挙行した。来賓として、神田真秋愛知県知事、日高 昇愛知県議会議長、全国水土里ネット会長（代理新井安廣常務理事）始め、愛知県農林水産部の多数の幹部の方々を迎える、本会役員及び県下各地域から参集した土地改良事業関係者約600名で、会場は立錐の余地もない程熱気に満ち溢れていた。



神谷会長主催者あいさつ



神田知事より感謝状を授与される高橋理事長

大会は、浜田一徳副会長の開会のことばに始まり、神谷金衛会長の主催者あいさつがなされた後、土地改良事業功労者72名の知事表彰を行い、受賞者代表の高橋義晴高豊土地改良区理事長に知事感謝状と副賞が授与され、今後とも土地改良事業の推進にご尽力されることをお願いし、表彰を終えた。続いて、神田愛知県知事、日高愛知県議会議長よりご祝辞をいただいた後、来賓紹介を行った。

この後、大会は議長に神谷会長が選出され、各支会の代表から、6項目に及ぶ要望事項の提案がなされ、それらを纏めた「土地改良事業推進に関する要望決議文書」を伊藤 明専務理事が朗読、決議文は満場一致で採択され、川上万二郎理事の閉会のことばで推進大会は幕を閉じた。

土地改良事業推進に関する要望決議

世界的な食料需給の逼迫が危惧され、我が国における食料自給体制の強化が急務となつてゐる中、土地改良事業は、安定した農業用水と生産性の高い優良農地を確保するうえで、ますますその重要性が増してゐる。

また、本県では、東海・東南海地震など大規模地震への対策や、平成十二年の東海豪雨を教訓とした排水対策など、地域の生命線である防災対策を担う土地改良事業に対し、県民の要望は一層高まつてゐる。

さらに本県の土地改良事業は、美しく快適な農村環境の形成や、農村地域における生物多様性の保全にも大きく貢献しており、本年度、愛知・名古屋で開催された生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）においては、環境先進県愛知を発信する一翼を担つたところである。

このように、土地改良事業は本県にとり極めて重要であるにもかかわらず、今、大幅な予算削減により存亡の危機に立たされている。我々土地改良関係者は、こうした状況を乗り越えるため、土地改良事業は地域の合意に基づき、地域に密着した、真に必要な事業であることを強く訴えるとともに、今後とも土地改良事業が少しも遅滞することなく円滑に推進できるよう強く要望する。

記

- 一、食料自給率を向上させる農業生産基盤、災害に強い地域をつくる農地防災対策を推進し、農業のみならず地域の発展に重要な役割を担う土地改良事業について、大幅に削減された国家予算の平成二十三年度での復活と、地域の要望に応えられる県、市町村予算の確保
- 一、地域住民が一体となつて、貴重な地域資源である農地、農業用水、土地改良施設などを保全する農地・水・環境保全向上対策の推進
- 一、地域に密着した単独県費補助事業の推進
- 一、土地改良施設維持管理に対する財政支援の拡充強化
- 一、農業水利権の充実・強化
- 一、土地改良団体の育成強化と事業推進体制の一層の整備
- 右決議する。

平成二十二年十一月十五日

第十三回愛知県土地改良事業推進大会

要請活動を実施



小川副知事に要望書を手渡す神谷会長

11月15日に開催した第13回愛知県土地改良事業推進大会で採択された「土地改良事業推進に関する要望決議」により12月2日、愛知県当局、愛知県議会に対して、要請活動を実施した。

平成22年度のように農業農村整備事業費の削減がこのまま継続すると「施設の改修や更新が困難となり、緊急を要する修理が実施されず、このまま老朽化が進むと、水路としての機能が失われ、食料自給率の低下にも影響がある。」ことが想定されます。水土里ネット愛知は、今後も引き続き要請活動を実施します。

【要望先】

【愛知県当局】

知事	田川	雄	眞	秋
副知事	田出	清	悦	雄
総務部長	木	樹	茂	清
農林水産部長	小	章	小	樹
農林基盤担当局長	青	青	青	雄

(敬称略)

【愛知県議会】

愛知県議会	議長	高村	悠	昇
	副議長	根	義	二
	農林水産委員長	日奥	中	一

自由民主党 愛知県議員団	團長	久保田	浩	宏
	幹事長	辺	克	正
	総務会長	鈴	大	人
	政調会長	大	竹	

自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟 会長	浜田	一	徳
---------------------------	----	---	---

民主党県議団	農林・水産等研究会長	原田	信	夫
--------	------------	----	---	---

第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭 執行

～物故功労者318柱の御靈を慰靈～



神谷会長施主追悼のことば

11月15日午後2時より、真宗大谷派名古屋別院（東別院）において、第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭を、110名余のご遺族と480名余の土地改良事業関係者ご来駕のもと、盛大且つ厳かの内に執り行つた。

慰靈祭は浜田一徳副会長の開式のことばに始まり、僧侶・導師入堂の後、参加者一同が合掌を行い、御靈を慰靈するための読経が流れる中、施主・神谷金衛会長の焼香に続いて、遺族代表・元愛知用水土地改良区理事長故野々山 啓氏のご遺族の野々山 紀様、ご来賓を代表して愛知県知事（代理小川悦雄副知事）、日高 昇愛知県議會議長、竹森三治東海農政局長、丸山和彦水資源機構中部支社長、全国水土里ネット会長（代理新井安廣常務理事）始め、東海農政局、愛知県農林水産部の多数の幹部の方々、会員を代表して8支会長と続き、ご遺族・ご来賓・役員全員の焼香がなされた。

僧侶・導師退堂の後、神谷会長から施主追悼のことばを、愛知県知事（代読小川副知事）、竹森東海農政局長が、祭壇に祭られた318柱の物故功労者の方々の生前のお元気な姿を偲びつつ、追悼の意を表わした。

次に、遺族を代表して野々山 紀様から感謝のことばが述べられ、川上万二郎理事の閉式のことばで物故功労者慰靈祭は、静肅の内に終了した。

ここに私たち土地改良事業関係者は、故人のご遺志を継ぎ、一致団結して土地改良事業の推進に全力を捧げる決意をいたしたところです。



満堂の東別院

第2回支会長会議 開催

第2回目の支会長会議を、10月5日愛知県土地改良会館6階第1研修室において開催した。会議には、神谷金衛会長（岡崎支会長）、浜田一徳副会長（海部支会長）、長瀬 保名古屋支会長、沢田丸四郎半田支会長、川上万二郎幡豆支会長、小久保三夫豊橋支会長が出席された。会議は始め神谷会長より挨拶がなされ、続いて、神谷会長を座長に選任し、議事に移った。提出した下記議案については、それぞれ、資料に基づき説明が行われた後、活発な意見交換が行われた。

記

- 1 平成22年度一般会計収支補正予算について
- 2 第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭並びに第13回愛知県土地改良事業推進大会開催について
- 3 その他 (1)今後の一般会計収支予算の動向について
(2)平成22年度「農地・水・環境のつどい」について

第2回理事会 開催

第2回理事会を、11月1日愛知県土地改良会館7階大会議室において開催した。理事会は始めに神谷会長の挨拶、続いて、参与としてご臨席の県幹部の方々を代表し、溝田大助農地環境対策監より挨拶をいただき、議事に入った。提出した下記議案は、いずれも原案どおり承認、可決された。



理事会

記

- 1 平成22年度一般会計収支補正予算の専決処分について
- 2 その他
 - (1)第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭並びに第13回愛知県土地改良事業推進大会開催について
 - (2)本会の運営状況について
 - (3)平成22年度農林水産省(農業農村整備関係)予算の現状について

第33回全国土地改良大会 長崎大会 開催

伝えよう 水の音色 土の温もり 里の安らぎ 西端の風にのせて。



野中全土連会長主催者挨拶

第33回全国土地改良大会長崎大会が、10月26日、長崎県島原市の島原復興アリーナにおいて、水土里ネット長崎、全国水土里ネットの主催及び農林水産省、長崎県、島原市、雲仙市、南島原市の後援により、大会テーマ「伝えよう 水の音色 土の温もり 里の安らぎ 西端の風にのせて。」の下、全国の土地改良関係者約3,500名が参集し、盛大に開催された。

大会は地元深江町の「和道・深江太鼓」による勇壮な和太鼓演奏によるオープニングセレモニーの後、一瀬政太水土里ネット長崎副会長による開会宣言にはじまり、ソプラノ歌手福地友子さんによる国歌斉唱、宮本正則水土里ネット長崎会長による開催県挨拶の後、野中広務全国水土里ネット会長より「今、農業を巡る環境の変化や予算の激減により、各地の優れた持続可能なシステムの存続が危ぶまれる事態となっております。この時こそ、私たち水土里ネット関係者は農林水産省を始めとする関係機関の皆様としっかりと連携し、島原の人々のような情熱をもって、地域農業の発展と地域の活性化のために、「水」「土」「里」を担う中核的な存在としてしっかりと活動してゆく必要があると思います。」と主催者挨拶、続いて中村法道長崎県知事、横田修一郎島

原市長による歓迎の言葉、松木けんこう農林水産大臣政務官による来賓祝辞がなされた。

来賓祝辞の後、土地改良事業功労者表彰に移り、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰13名、全国土地改良事業団体連合会長表彰48名の受賞者に表彰状と記念品が授与された。愛知県からは、全国土地改良事業団体連合会長表彰に

本会監事の河合恭弘水土里ネット田原市理事長が表彰の栄に浴された。

大会は、農業農村の振興に向けた優良活動事例の紹介、齋藤晴美農村振興局次長より基調報告、大会宣言へ移った。大会宣言では、長崎県立農業大学校の前田拓也さんと早崎美紀さんが、国民一体となって「水」「土」「里」を守り、育み、伝えていくことを、日本近代文化のさきがけとなった長崎の地から強く訴えた。

この後、北海道の眞野弘水土里ネット北海理事長から緊急動議の提案があり、「23年度概算要求における農業農村整備事業費は決して十分な予算額とは言えないこと、また、特別枠への要望額374億円が確保できなければ、23年度予算額は、本年度の大幅削減から更にマイナスの対前年度比90%を下回り、農地や農業水利施設への影響は計り知れない。」と述べ、①食と地域の再生に向け、農業農村整備事業の推進に必要な平成22年度における補正予算を早期に手当てすること。②平成23年度予算において、農業農村整備事業関係の特別枠要望を満額確保するとともに、全体規模の大幅増を図ること。③農業水利施設の適切な保全管理と計画的な更新整備、水田の汎用化に向けた排水対策などの農地の整備を国策として推進すること。

以上3項目について決議することが提案された。野中会長はこの緊急動議を受け、「いずれも私たち土地改良関係者が、今一層、声を大にして訴えていくべきものであり、是非皆様に3項目を本日の大会決議として採択していただきたいと思う。」と述べ、会場からは溢れんばかりの拍手が起こった。野中会長は、「皆様の賛同を得ることができた。この決議を柱として、各方面に一致団結して働きかけ、少しでも現在の状況が打開されるよう努力してまいりたい。」と述べた。

続いて、大会旗引継ぎに移り、次期開催県である宮城県の紹介と、大会旗が宮本水土里ネット長崎会長から野中全国水土里ネット会長へ、そして佐々木水土里ネットみやぎ会長へと引き継がれた。

最後に、吹田幌全国水土里ネット副会長の閉会挨拶により大会は盛会裏に幕を閉じた。27日から28日には、諫早湾の干拓を始めとする長崎県内の先進的な農業農村整備事業実施地区の視察研修会が、各コースに分かれ実施された。



視察研修会



全土連会長表彰の
河合水土里ネット田原市理事長

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集い 開催

12月2日、東京・新宿区の「日本青年館」において「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集いが開催され、全国から約400名が参集した。この集いは、1回目を6月7日に開催し、今回が今年度2回目の開催である。愛知県からは、本会並びに水土里ネット宮田用水、海部、愛知用水、明治用水、矢作川南部、矢作連合、豊川総合用水の役職員11名が参加した。

集いは、呼びかけ人の水土里ネット田沢疏水の高貝久遠理事長の代表挨拶に始まり、野中広務全国水土里ネット会長が激励の挨拶を述べた。その後、各地の情勢報告に入り、本県からは、**本会理事の小久保三夫水土里ネット豊川総合用水理事長**が「農業農村整備事業のPR活動と予算確保の活動報告」と題し、情勢報告を行った。

引き続いて、要請書が読み上げられ、満場一致で採択、最後に水土里ネット北海道由仁の西村明博理事長の音頭で「ガンバロウ三唱」が行われ集いは幕を閉じた。

集い終了後、農業農村整備予算の確保について、内閣府、農林水産省、財務省、総務省、民主党及び地元選出の国会議員等へ要請書を提出し要請活動を実施した。



小久保水土里ネット
豊川総合用水理事長の情勢報告

要 請 書

政府は、3月末新たな食料・農業・農村基本計画を開議決定し、「食」と「地域」の再生に向けて食料・農業・農村政策を国家戦略として位置付け、政府一丸となって政策を推進していくことを表明されており、我々はその具体化に大いに期待しております。

しかしながら、平成22年度予算における農業農村整備事業費の大幅削減によって、我が国の農業・農村はその将来に大きな不安を抱えることとなりました。

農地や農業水利施設は食料生産の基礎として不可欠なものであり、農地の改良や施設の更新が円滑に推進されなければ、食料生産が減少するとともに転作作物への転換も滞り、食料自給率の向上に支障を来すばかりでなく、農村地域の災害の誘発等の増加により農業・農村が成り立たなくなると危惧されるところであります。このため、農村地域の人々から様々な不安の声が挙がるとともに、多くの有識者からも、国民全体の不利益につながるとの指摘がなされているところです。

このような中、23年度概算要求では元気な日本復活特別枠も活用いただき5%増の要求額となりましたが、21年度と比較すれば依然として4割以下に留まる規模となっております。また、特別枠の確保いかんによって本年度の大幅削減から更にマイナスとなれば、我が国の農地や農業水利施設への影響は計り知れません。

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものです。食を巡る国際情勢も踏まえつつ、日本の農業・農村を下支えする農業農村整備の厳しい状況を打開いただくよう、下記事項の実現を強く要請いたします。

記

- 農業農村整備事業関係の元気な日本復活特別枠要望事業である戸別農家所得補償実施円滑化基盤整備及び農山漁村地域整備交付金について、特別枠要望額を満額確保すること
- 食と地域の再生に向け、平成23年度の農業農村整備事業予算について、特別枠を含めた全体規模を大幅増とすること
- 農業水利施設の適切な保全管理と計画的な更新・整備、水田汎用化に向けた排水対策などの農地の整備を国策として推進すること

平成22年12月2日
「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集い

2010ため池フォーラムinあいち 開催

10月22日、「2010ため池フォーラムinあいち」本会議を「ため池が育む生物と暮らし」～見つめよう 生き物の多様性～のテーマの下、2010ため池フォーラムinあいち実行委員会(愛知県と水土里ネット愛知)主催、農林水産省、全国水土里ネット、全国ため池等整備事業推進協議会、水資源機構中部支社、全国農村振興技術連盟、中日新聞社後援、生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会連携協力で開催し、県内外から790名余の関係者が、名古屋市中区の「ウィル愛知」に参集した。



稲垣実行委員会委員長主催者挨拶

開会式は、神谷金衛実行委員会副委員長(水土里ネット愛知会長)の開会のことばに始まり、稲垣隆司実行委員長(前愛知県副知事)の主催者挨拶、来賓を代表して、愛知県知事(代理小川悦雄愛知県副知事)、中根義一愛知県議会農林水産委員長、農林水産省農村振興局長(代理黒田憲司防災課長)と吹田 愉全国ため池等整備事業推進協議会長が祝辞を述べられた。その後、「ため池賛歌～池のほとりの散歩道～」の合唱が、愛知高等学校グリークラブ男女学生60名余の生徒により披露された。引き続き、基調講演に移り、地元で活躍されているアウトドアタレント鉄崎幹人氏が、「楽しさ溢れるため池探検」をテーマにため池に生息する絶滅危惧種や外来生物などを自身が捕獲し撮影、編集された映像を交え、またクイズ形式でユーモラスな講演となった。次に、野田英亨農村振興局防災長補佐により「ため池百選」の報告、農地・水・環境保全向上対策の活動組織「有脇の農地・水・緑を守る会」の神谷代表と「半田市立有脇小学校」児童6名による「かいどり大作戦」の事例発表を行った。



「かいどり大作戦」事例発表



パネルディスカッション



愛知県職員による大会宣言

休憩を挟んで、実行委員会のアドバイザーの竹谷裕之名古屋大学名誉教授をコーディネーターに、同じくアドバイザーの西村一彦日本福祉大学教授、矢部 隆愛知学泉大学教授、片山健生中日新聞記者の3名と、鉄崎氏がパネリストとなり「ため池が育む生物と暮らし」をテーマにパネルディスカッションが行われた。フォーラムも終盤を迎え、若手愛知県職員男女5名が、ため池が生き物の豊かな営みの場として見つめなおし、関係者と一緒にとなって次世代へ引き継いでいくことを宣言、その後、来年度の開催県である岩手県の伊藤千一農林水産部総括課長から次期開催あいさつが述べられた。

閉会式では、青木章雄実行委員会委員(愛知県農林水産部農林基盤担当局長)より閉会

のあいさつが述べられ、本会議は幕を閉じた。

18時からは、場所を「アイリス愛知」に移し、交流会を開催、120名余が参加した。翌23日はバス8台で「尾張コース」「海部コース」「知多コース」「西三河コース」の4コースに分かれ、現地見学会を実施した。全コースとも、COP10の会場（白鳥会場か愛・地球博記念公園会場）を廻るというコースどりの工夫を施し、参加者全員に国際会議COP10の雰囲気を少しでも味わってもらうことができた。また、「知多コース」では、前日事例発表のあった「有脇の農地・水・緑を守る会」と「半田市立有脇小学校」による池干しが実施され、NHKニュースとして、当日放映された。

2010ため池フォーラムinあいちの参加にあたっては、参加のお願いをしたうえに、会場の定員を上廻り参加を見合させていただいた会員もお見えになるなど大変ご迷惑をおかけしました。

ARICのホームページ (<http://www.aric.or.jp/streaming/2010tameike/index.html>) に、当日の模様がビデオアップされておりますのでご覧いただければ幸いです。

●農と水の故郷フェア'10 ~田畠の水はどこからくるの?~ 開催!! ●第13回あいちの農業・農村パネル展 ~水土里ネットってなんだろう?~



テープカット

9月25日（土）、安城産業文化公園デンパーク（水のステージ前広場）において、農業・農村の重要性と、その基盤を支える農地、農業用水、水源林などの役割・仕組みについて、次代を担う子どもたちを中心として広く県民に理解を深めてもらおうと、農と水の故郷フェア'10～田畠の水はどこからくるの?～を開催した。

会場では親子連れを対象として約1,400人の参加者が農業用水・水源林に関するクイズ・ウォークラリーを楽しむイベントや、日本の食料・農業農村整備事業の体験学習コーナーを楽しんだ。その他、愛知用水や明治用水の水源地域の物産展、田んぼの生き物展、モリゾーやキッコロといっしょに田んぼの生き物クイズや、明治用水ゆかりのゆるキャラとの交流などを行い、多くの来場者が訪れ午後3時のイベント終了まで賑わいを見せていた。今回は、デンパークの協力により9月18日（土）～27日（月）の間、園内で「クイズ・ウォークラリー」を開催、また、マーケット前では「第13回あいちの農業・農村パネル展～水土里ネットってなんだろう?～」を開催し、農業用水の役割や重要性、そして農業用水とその関連施設を管理している水土里ネットの役割をPRした。



クイズ・ウォークラリー



田んぼの生き物クイズ



あいちの農業・農村パネル展

研修会

平成22年度農業農村整備技術強化対策事業 一般研修 開催

10月5日、愛知県土地改良会館7階大会議室において平成22年度農業農村整備技術強化対策事業一般研修を開催した。

研修の開会にあたり、伊藤 明水土里ネット愛知専務理事から、「食料・農業・農村計画が3月30日に閣議決定され、食と地域の再生に向け、食料の安定供給を確保することが、国のもっとも基本的な責務とされ、食料・農業・農村政策が国家戦略と位置づけられた。食料自給率が低迷する中、農業農村整備をより効率的・効果的に実現するため、農業生産基盤の保全管理と整備の新たな展開を推進するとされた。また、先週28日から国民の声を予算編成に反映させる試みとして元気な日本復活枠の要望に関するパブリックコメントが開始され、これらをもとに平成23年度の予算編成がされる。」と主催者の挨拶があり、引き続きご臨席いただいた宮本 晃農林水産部農林基盤担当局農地整備課主幹からは「本日は、農業農村整備事業を巡る最近の情勢の講義があり、今後の動きをさぐっていただきたい。また、研修科目にあります農業農村整備事業においての環境への配慮や生物多様性ということは最近重視されております。生物多様性に関するツールという

のは農業土木関係者も身につけておくべきものである。」と挨拶をいただいた。講師には、東海農政局、愛知県から、下記カリキュラムにあるように当該事業を直接担当されている方々をお招きし、各講師の方々から具体的なご指導をいただけた。研修には、県内各地から農業農村事業に携わる県・市町村・水土里ネットなどの職員63名が受講し、有意義な研修となった。



研修の様子



伊藤専務理事開会挨拶

【カリキュラム】

研修科目	講師（敬称略）
新たな食料・農業・農村基本計画	東海農政局 企画調整室長 中川一郎
農業農村整備事業を巡る最近の情勢	東海農政局整備部 設計課長 原川忠典
農業・農村整備における生物多様性保全に向けた取組み	東海農政局木曽川水系 土地改良調査管理事務所 所長 宮崎敏行
農業農村整備事業における環境配慮の取組み	愛知県農林水産部農林基盤担当局 農地整備課 主任主査 岡田洋明
農地・水・環境保全向上対策の愛知県における中間評価	愛知県農林水産部農林基盤担当局 農地計画課 主任主査 森田光治

■ 水土里ネット事業視察研修会 開催

11月8日～9日にかけて、農業農村整備事業の推進を図るため、8日には、福井県吉田郡永平寺町及び坂井市において、「国営九頭竜川下流農業水利事業の概要」を、9日には、石川県加賀市「国営造成土地改良施設整備事業柴山潟地区」及び福井県越前市「水土里ネット日野川用水・水土里ネット松ヶ鼻の運営及び施設の維持管理体制等」の事業視察研修会を開催した。

研修会には、62名が参加し、1日目は、永平寺町及び坂井市にて、北陸農政局国営九頭竜川下流農業水利事業所の山田次長より詳細な事業概要の説明を受けた。2日目の小松市柴山町の柴山潟排水機場では、北陸農政局西北陸土地改良調査管理事務所の友貞企画課長より国営造成土地改良施設整備事業柴山潟地区の概要を、また福井県越前市の水土里ネット日野川用水では、今宮専務理事、辻川管理課長により水土里ネット日野川用水及び水土里ネット松ヶ鼻の運営及び施設の維持管理体制などについて説明を受けた。

参加された方々は、それぞれの立場から熱心に視察され、地域での農業農村整備事業の推進の参考にしていただいた。



国営九頭竜川下流農業水利事業の説明を受ける参加者

農業用排水機器移管期成同盟会（服部金蔵会長）視察研修会を、9月14日～15日にかけて、1日目は大阪府茨木市「水土里ネットしんあん」、2日目は、兵庫県淡路市「北淡震災記念公園野島断層保存館」と枚方市「株式会社クボタ枚方製造所ポンプシステム」において開催した。参加者は、同盟会役員・会員等61名。

農村振興総合整備推進事業（農業集落排水）視察研修会を、11月17日、三重県伊賀市では、農業集落排水事業西山地区環境配慮施設（自然浄化施設）、名張市では、農業集落排水事業赤目南部地区（機能強化事業施工現場）を、また、伊賀市にある三重総合リサイクルセンター（汚泥処理炭化施設）において開催した。参加者は、県・市町村・水土里ネット職員32名。

適正化事業加入団体现地研修会を11月25日、土地改良施設の適切な維持管理と適正化事業の円滑な推進を図るため、三重県津市中山排水機場（適正化事業）、伊勢市松下排水機場（適正化事業）、多気郡明和町の斎宮調整池（国営事業）において開催した。参加者は、市町村・水土里ネット職員57名。

排水機管理担当者現地視察研修会を12月10日、三重県桑名市多度町福永排水機場、木曽岬町川先排水機場、桑名市の長良川河口堰において開催した。参加者は、市町村・水土里ネット等の職員や運転管理者68名。



排水機同盟会研修会



農業集落排水研修会



適正化事業研修会



排水機管理担当者研修会

「第9回あいちの農業・農村フォトコンテスト」 =大賞・優秀賞・特別賞・入選作品決定=

本会主催、愛知県後援の「第9回あいちの農業・農村フォトコンテスト」の審査会を12月17日、愛知県土地改良会館7階大会議で開催した。県内各地から、今回のテーマ「土地改良施設と水土里の四季」を表現した作品378点（184人）の応募があった。審査は、審査会規程第2

条により実施され、8名の



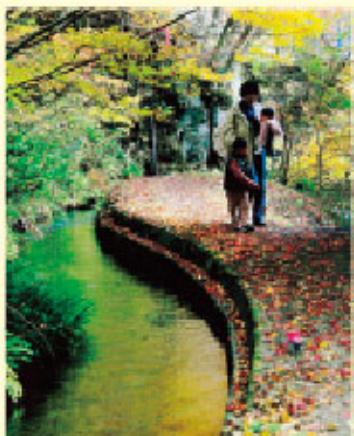
審査会

審査員による厳正な審査の結果、水土里のフォト大賞1点、優秀賞2点、豊かな農地あいち特別賞1点、農地・水・環境向上活動特別賞3点、入選10点の17点が選考された。

なお、入賞・入選作品の展示を下記により実施しますのでお立ち寄りください。



水土里のフォト優秀賞
撮影者・長谷川哲也氏



水土里のフォト優秀賞
撮影者・本多忠夫氏

【展示場所及び期間】

展示場所	展示期間(予定)
県庁本庁舎・西庁舎の地下連絡通路	平成23年1月24日(月)PM～平成23年2月4日(金)AM
西三河県民生活プラザ(西三河総合庁舎1階)	平成23年2月7日(月)AM～平成23年2月18日(金)AM
東三河県民生活プラザ(東三河総合庁舎1階)	平成23年2月21日(月)AM～平成23年3月4日(金)AM
海部県民生活プラザ(海部総合庁舎1階)	平成23年3月7日(月)AM～平成23年3月18日(金)AM

□水土里のフォト大賞(撮影者・服部 宏之氏)作品は、表紙に掲載してあります。

「ふるさと田んぼと水」 子ども絵画展2010 =入賞・入選作品決定=

作品募集を、5月に県下全市町村の教育委員会にお願いしたところ県内から一般応募518点、団体応募995点の合計1,513点(全国の応募総数は10,075点)の応募があった。

審査の結果、入賞作品18点、入選作品106点、団体賞作品69点が決定した。本県から1点の入賞と13点の入選の14点が選考された。



「元気に育て!古代米」

また、団体応募に水土里ネット明治用水、水土里ネット豊田、水土里ネット南陽、水土里ネット油ヶ渕悪水が参画し、審査委員に水土里ネット明治用水理事長賞、水土里ネット豊田理事長賞他3賞、茶屋新田地域資源保全隊長賞、水土里ネット油ヶ渕悪水理事長賞（今年度より参加）を選考いただいた。

入賞 ※「元気に育て!古代米」

入選 ※「かえるととんぼ」

※「ほんづくたいかい(竹村田んぼにて)」

「すいかだいすき」

※「稲刈り体験」

※「たなだ」

※「ほうばずし」

「生きものと田んぼ」

「うちの田んぼ お米がたくさんできたよ!」

「岐阜じいちゃんの柿畠」

※「春、桜に囲まれた明治頭首工」

「水田と風車」

「じいちゃんの帰り道」

※「田んぼにうつる夕日」

鈴木 美乃

加藤 れい

神谷 旺輔

櫛田 理貴

吉見 大樹

岩本 みなみ

佐藤 琴乃

細野 詩依奈

小栗 佐文

小島 亜佑子

菊田 光我

小久保 理沙

山本 涼葉

寺田 陽南

刈谷市立平成小6年

(敬称略)

山美福社会よさみ保育園(年少)

豊田市立竹村小1年

稲沢市立清水小1年

西尾市立鶴城小1年

知立市立来迎寺小2年

豊田市立堤小2年

岡崎市立北野小2年

半田市立板山小4年

一宮市立葉栗小4年

豊田市立堤小5年

田原市立伊良湖小5年

半田市立亀崎小5年

豊田市立若園小6年

※印は、団体応募から入賞・入選のあった作品です。

[一般応募からの入選作品紹介]



「すいかだいすき」



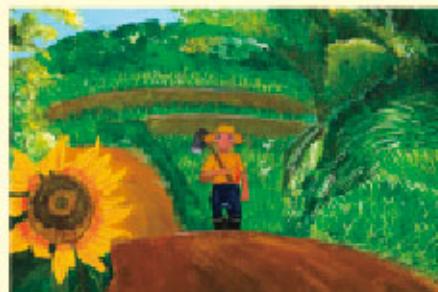
「生きものと田んぼ」



「うちの田んぼ お米がたくさんできたよ!」



「水田と風車」



「じいちゃんの帰り道」



「岐阜じいちゃんの柿畠」

団体応募は、すべての水土里ネットが参画できますので平成23年度に向けてご検討いただければ幸いです。詳細は、総務部企画広報課(TEL 052-551-3613)まで問い合わせください。

会員情報

活動情報



合併予備契約調印式

かみそぶみ

【水土里ネット岡崎市東部、水土里ネット上衣文】

は、10月14日、岡崎市内にある水土里ネット岡崎市東部と水土里ネット上衣文の土地改良区合併予備契約調印式が、両水土里ネットの役職員を始め、愛知県、岡崎市、水土里ネット愛知などの関係者24名の出席のもと、あいち三河農業協同組合美合支店で開催された。

調印式では、水土里ネット岡崎市東部の山本理事長

が挨拶、水土里ネット上衣文の佐野理事長が経過報告をし、柴田岡崎市長、廣瀬西三河農林水産事務所長が立ち会う中、山本、佐野両理事長が合併契約書に調印し、立会人署名の後、記念撮影を実施した。

水土里ネット岡崎市東部が水土里ネット上衣文を吸収合併し、名称はそのまま水土里ネット岡崎市東部とし、合併後の受益面積は504ha、組合員数は1,283人となる。



前山ダム

【水土里ネット愛知用水】は、11月25日、常滑市にある前山池において「食と緑の基本計画『農業用ため池（前山池）の清掃活動』」を開催した。この活動は、食と緑が支える豊かな「あいち」を目指して、平成17年2月に愛知県が策定した「食と緑の基本計画」のうち、海や川などの生産環境や景観等を良好な状態に保つため、清掃活動の支援や啓発活動を行うもの

ので、前山池の水を利用している受益地域の役員、総代、管理区長等が参加し、周辺の清掃を始めパネル展や施設見学を実施した。

施設見学では、(独)水資源機構愛知用水総合管理所下流管理所職員から前山ダムの運用等の説明を受け、また、普段は見ることのできない操作室や取水塔を見学するなど貴重な体験を通じて前山ダムの重要性と水の大切さを身近に感じることができた。

21世紀土地改良区創造運動

【水土里ネット南陽】は、10月1日、地元の南陽小学校の全児童を対象とした、さつま芋掘り（1年生と2年生）と稲刈り（3年生～6年生）体験を実施した。

5月10日にさつま芋の苗付けと田植え体験をした児童たちは、今度は収穫を体験でき、とても満足そう



さつま芋掘り



稲刈り

でした。この活動は今年で4年目を迎え、高学年の児童の鎌を持つ作業の姿は、とても板についたもので安心して見ることができ、また、低学年の児童は、各々が大きなさつま芋を狙って楽しそうに掘っている姿がとても微笑ましく、水土里ネットは、今後も大都市近郊の小学校の児童たちに農業や農村環境を守っていく心を育む応援をします。

【水土里ネット牟呂用水】は、11月6日、第7回水土里ウォークイン「牟呂用水」を開催した。今回は、当初10月30日に計画していたところ台風の影響で1週間延期したにも関わらず小学生の児童とその家族58名が参加した。

農業や社会に関わる「水」の大切さ、牟呂用水美化への意識向上や水土里ネットについて知ってもらうことを目的としてウォークラリー形式で約3kmのウォーキングを実施した。ウォーキングコースでは、普段は歩けない水路の中を実際に歩いてもらい、別の視点で用水を感じてもらうことや、牟呂用水美化への取組としてゴミ袋を持って530（ゴミゼロ）運動しながらのウォーキングをしてもらった。参加者からは「孫が楽しい、楽しいと喜んでいる。」などの声を聞くことができ、参加者には楽しく有意義な一日を過ごしていただけだ。



水路内ウォーク



水路に生息する生き物展示

水土里ネット祖父江町が 21創造運動さなえ賞を受賞しました。

21創造運動大賞さなえ賞を水土里ネット祖父江町が受賞（全国で11の水土里ネットが受賞）した。この賞は、21創造運動の更なる裾野の拡大を図るため、キラリと光る活動をした、将来性のある水土里ネットを表彰するもので、12月16日に開催された21創造運動セミナーの席上で表彰された。

水土里ネット祖父江町は、農地・水・環境保全向上対策事業の活動組織6地区の取りまとめ役を担っている。6地区の活動組織には、理事長をはじめ水土里ネットの役員が各3名づつ役員を務め、水土里ネット祖父江町が活動組織の中心となって活動を展開している。平成21年度に水田地域の生物多様性を保全するためのモデル地区として、水田魚道設置（県内10ヵ所を限定）に採用され、注目され始めたことが「農業用施設を管理しているのは水土里ネットなのだ。」ということを更に広く地域住民に知ってもらおうという意識改革が役職員の中で芽生えたことが運動の取り組みへのきっかけとなり、今後更なる活動の発展性が期待される。

土地改良施設台帳整備業務の取組み

水土里ネットが設立され、その後受益者や受益地域の変動が生じ更新されていない状態である土地改良施設台帳を整備する業務支援を、水土里ネット愛知は、積極的に取り組んでいます。水土里ネットの運営や維持管理に大変役立つ最新版の土地改良施設台帳にする業務の問合せは、計画部水土里センター室（TEL 052-551-3621）へご連絡ください。

業務内容

- (1) 土地改良施設（頭首工、取水ゲート、樋門、ため池、用排水路、農道等）の名称及び形式を調書に纏めます。
- (2) 土地改良施設（頭首工、取水ゲート、樋門、ため池、用排水路、農道等）を施設台帳図面に表示します。
- (3) 土地改良施設（頭首工、取水ゲート、樋門、ため池、用排水路、農道等）の写真を添付します。



施設台帳図面（例）



排水路施設調書（例）

路線名	延長 m	通水量 m³/s	勾配	構造	断面	主要構造物	維持管理方法	取得年月日
—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—

◆水土里情報システムの活用方法について ～システムの利活用による農業農村整備事業等の推進～

現状把握

○管理施設の把握 (*管理者: 市町村、土地改良区)

- ・用水路 (バイパス、開水路、揚水機場、付帯施設等)
 - ・排水路 (開水路、排水機場、付帯施設等)
 - ・農道 その他施設等
 - ・土地 (農地)
- *土地改良法第2条、3条、16条、17条

現状管理

- ・施設の補修及び改修の履歴
- ・土地 (農地)
- ・住民又は農家からの問合せ

左記内容を、水土里情報システムに登録管理 (ユーザ側でも可)ができるため、更なるシステムの充実が図られる。



上記整備を実施している事例

- ・管理者 (市町村、土地改良区)からの委託整備
- ・農山漁村地域整備交付金 (公共)
- ・緊急雇用創出事業 (県、市町村) 等…

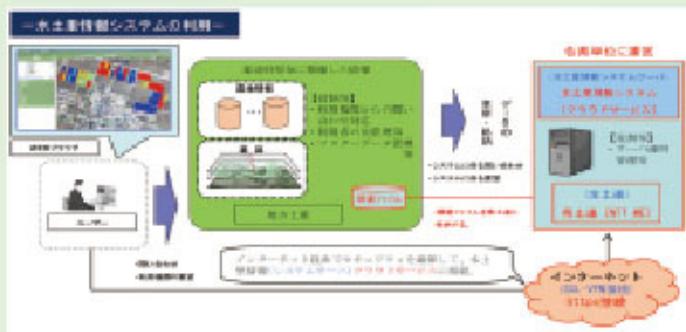
相互活用・整備及び充実

- 農地筆、耕区、空中画像、地形図、農業用排水路施設の整備



- 上記整備の補助事業 (平成22年度まで)
- ・水土里情報利活用促進事業
 - ・食料供給基盤保全管理対策支援事業

※市町村、農業委員会におけるGISシステムとの連携も可能



水土里情報システム

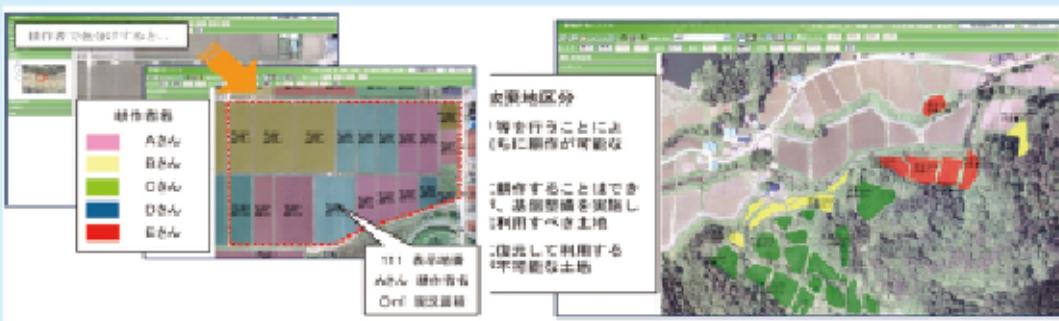




利活用により大きな効果発現

具体的な案件

- ・地域の整備計画の策定
(各種計画策定に利活用可能)
 - ・計画調査事業
 - ・事業地区内の受益地の確認に活用
 - ・営農計画策定及び確認
- <更新、整備事業(新規)>
- ・農業農村整備事業(全般)
 - ・農業水利施設ストックマネージメント事業
 - ・農地水環境保全向上対策(平成23年度から、施設の長寿命化のための活動への支援)
- <その他事業>
- ・農業農村整備事業におけるソフト事業
 - ・農振整備計画
 - ・戸別所得補償
 - ・耕作放棄地対策
 - ・鳥獣害対策等 …



★水土里情報システムの利活用について

平成22年度

- ・一部の地域においては、利活用に向けて仮運用を実施します。
実施期間:平成23年2月末(予定)まで
(クラウドシステムでの活用は、平成23年3月下旬から(予定))

平成23年度

- ・水土里情報システムの活用開始
実施期間:平成23年4月から

★利活用に向けての手続き

平成22年度

- ・利活用申込 —— 所定様式にて申込
- ・利活用許可 —— ID、パスワードの付与
*利活用料金は無償。但し、Web対応等ユーザ環境の整備が必要

平成23年度

- ・利活用契約書の締結(ID、パスワードの付与)
- ・利活用者の権限及び利活用の範囲の確認
- ・利活用経費については、契約書に定める金額にて請求
*利活用料金はユーザー負担。Web対応等ユーザ環境の整備が必要



お問合せは… 愛知県土地改良事業団体連合会 計画部 調査課
TEL 052-551-3620

農地・水・環境のつどい 開催



小川副知事主催者挨拶

10月16日、愛知県女性総合センター（ウィルあいち）において、「農地・水・環境のつどい」を主催愛知県、共催水土里ネット愛知・愛知県農業協同組合中央会で開催した。

小川悦雄副知事の主催者挨拶の後、活動の一層の普及を図るとともに、県民の理解の促進と他の模範となる優れた活動を実践する活動組織に、知事賞、県土連会長賞、

愛知県農業協同組合中央会長賞の表彰が行われた。引き続き、講演会で女優・キャスター石井苗子氏が、「水と日本人～命を育む水の大切さ～」をテーマに講演された。

最後に、神谷金衛水土里ネット愛知会長の閉会の挨拶で、農地・水・環境のつどいを終えた。

各表彰活動組織は、次のとおりです。



会長賞表彰の様子

愛知県知事賞

基礎的活動の部
おくさ水土里の会(小牧市)
農地・水向上活動の部
清田地域環境保全会(田原市)
農村環境向上活動の部
水土里豊かな北浜川西を創る会(西尾市)
営農活動の部
上平井地域環境保全隊(新城市)

愛知県土地改良事業団体連合会長賞

基礎的活動の部
平環境水利組合(一宮市)
農地・水向上活動の部
中田ふる里守り隊(豊田市)
農村環境向上活動の部
高棚環境向上委員会(安城市)
早尾資源保全会(愛西市)
農村環境向上活動の部
有脇の農地・水・緑を守る会(半田市)
黒瀬水土里会(新城市)

愛知県農業協同組合中央会長賞

営農活動の部
赤松環境保全協議会(安城市)
花正地区環境保全推進協議会(あま市)

水土保全強化対策事業 情報

◆ 北陸・東海・近畿ブロック換地事務指導研究会及び異議紛争処理対策検討会

全国水土里ネット主催による同検討会が、9月2日と3日の2日間にわたり、岐阜県の「ホテルグランヴェール岐山」で開催され、農林水産省、3農政局、2府11県と2府11県土連、(独)森林総合研究所森林整備センターから82名が出席した。

(協議事項)・換地を巡る情勢

- ・平成22年度中央換地センター業務実施計画等
- ・換地業務に係る実務処理事例
- ・異議紛争処理対策地区事例
- ・農地利用集積指導事例

◆北陸・東海ブロック土地改良換地訴訟検討会

平成22年度の同検討会が、11月11日～12日、富山県の「名鉄トヤマホテル」で開催され、8法務局、2農政局、7県、7県水土里ネット職員58名が出席した。

(基調講演) テーマ：土地改良法に関する訴訟、照応の原則について

講 師：名古屋法務局証務部 部付検事 早川 充

(ケース・スタディー)

新潟県：土地改良法第53条第1項但し書による同意書の効力について

愛知県：事実上の同意（黙示の同意）の認定について

瑕疵の継承について

(現地研修)：農事組合法人たてやま営農組合

国営総合農地防災事業横江頭首工

◆農用地等集団化検討会

平成22年度の同検討会が、11月26日、岐阜県海津市で開催され、東海農政局、東海3県、東海3県水土里ネットから15名が出席した。

(協議事項) ・集団化関係の協議

・営農組合設立と農地利用集積

・食料自給率向上と農業の活性化

・米粉を活用した加工食品

◆日本政策金融公庫農業基盤整備資金の金利改定

日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の貸出金利が、9月21日以降下記のとおり改定された。

	9月21日	10月25日	11月18日	12月20日
県営補助残	1.55%	→ 1.35%	→ 1.45%	→ 1.65%
団体営補助残	1.40%	→ 1.20%	→ 1.30%	→ 1.50%
団体営非補助	1.40%	→ 1.20%	→ 1.30%	→ 1.50%
災害復旧 5年以内	0.55%	→ 0.50%	→ 0.55%	→ 0.70%
10年	0.85%	→ 0.65%	→ 0.75%	→ 0.95%
15年	1.25%	→ 1.05%	→ 1.15%	→ 1.35%
20年	1.40%	→ 1.20%	→ 1.30%	→ 1.50%

◆ 詳細については、名古屋支店農林水産事業農業食品第二課(TEL052-582-0745)に問い合わせください。

平成22年度水土里ネット役職員研修会開催のお知らせ

日 時 平成23年1月14日(金)10時15分～

場 所 愛知県土地改良会館 7階大会議室

(敬称略)

研修内容

- | | | |
|---------------------|------------------------------|--------------|
| 1 土地改良区の運営等 | 講師：東海農政局土地改良管理課長 | 山田 義信 |
| 2 6次産業化の推進 | 講師：東海農政局食品課長 | 小島 始 |
| 3 維持管理計画書の整備とその活用 | 講師：水土里ネット愛知 指導監 | 本多 誠 |
| 4 農業農村整備事業と6次産業化 | 講師：水土里ネット関田原理事長(岐阜県) | 栗倉 元臣 |
| 5 水土里ネットにおける協働連携活動 | 講師：水土里ネット明治用水 事務局長
地域活動室長 | 稲垣 透
深津 修 |
| 6 農業農村整備事業の現状と今後の動向 | 講師：全国水土里ネット 企画研究部長 | 奥田 透 |

※参加申込等の詳細については、12月14日付で通知しました内容をご確認ください。

迎春

本年もよろしくお願ひいたします

平成23年 元旦

会長

副会長

専務理事

理事

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

代表監事

監事

〃

神浜伊長市谷恒中澤澤山川内三久小横白早河
谷田藤瀬野 川野田田口上藤浦野保山木川合

金一 清一宣治丸廣文万
衛徳明保一夫彦美郎三雄郎昇司英夫明夫三弘
孝知三光実健恭

明治用水土地改良区理事長
学識経験者
北名古屋市長
西福田土地改良区理事長
一宮市長
宮田用水土地改良区理事長
向島土地改良区理事長
学識経験者
愛知用水土地改良区理事長
幸田土地改良区理事長
矢作川南部土地改良区理事長
吉良土地改良区理事長
豊田土地改良区理事長
みよし土地改良区理事長
豊川総合用水土地改良区理事長
設楽町長
鍋田土地改良区理事長
油ヶ渕悪水土地改良区理事長
田原市土地改良区理事長

事務局長
事務局次長・総務部長
計画部長
整備部長
総務課長
企画広報課長
計画課長
調査課長
水土里センター室長
指導監

樋早鈴近萩坪天長加本
彦春生博樹典雄
利清敏芳正寿
口川木藤野内野坂賀多
利昇誠

整備課長
施設管理課長
測量課長
名古屋支会事務長
一宮支会事務長
海部支会事務長
半田支会事務長
岡崎支会事務長
幡豆支会事務長
豊田支会事務長
豊橋支会事務長
忠宣美美倫一泰男彦和一
弘和和辰経彰久和和浩和
井川野部川野田下原野田
横石平服長宇岡竹小笠水秋田

外職員一同